



北海道のすみずみまで鉄路が網羅された約50年前の古い地図を見ると、やるせない思いに駆られます。いくつものローカル線が廃止されるたびにバス転換が図られ、留萌と幌延を結んだ羽幌線も、多分にもれず、廃線（昭和62年）後は沿岸バスが公共交通を担うことになり、遠別駅もバスターミナルへと姿を変えました。

ところが昨今はバスの運転手不足もあって、代替となるバス路線の維持さえも危ぶまれる深刻な事態を迎えています。路線バスのダイヤ縮小や廃線は道都札幌でも進み、今後は道内各市町村も持続可能な地域公共交通のあり方を確立していかなければなりません。

遠別町の交通網は、日本海沿いに南北を貫く国道232号と、国道に接する2つの道道（遠別中川線・名寄遠別線）が幹線道路となっていて、この3路線はバス通りでもあります。しかし、令和2年に道道2路線から沿岸バスが撤退したため、遠別町はデマンドバスを運行することになりました。

その委託業務を引き受けたのが（株）北星観光です。遠別にこの会社があれば当地の公共交通は麻痺していたでしょう。鎌田社長を訪ねました。

貸切バス業務で送迎を行っていた頃の鎌田社長。



人とのつながりを
いつまでも大切に
——私の信条

遠別町への恩返しと思い、 デマンドバスの委託を請負

「ハイヤー業務は再構築する必要があります。がありました。なにせ蓋を開けてみたら負債が600万円もあったのです。それを車2台で初年度1,200万円を売上げ、順調に軌道に乗せていきました。とにかく安全運行を基本原則として、お客さまに喜ばれるサービスに徹した結果です。

3年後の平成8年には貸切バス業務（一般乗合旅客自動車運送事業）に参入し、定員29名の小型バスを3台導入しました。その頃は宗谷バスさんも沿岸バスさんも小型・中型バスを持つておらず、その隙間に入りこめるような仕事があったのです。いまでも忘れられませんが、当時、稚内商工高校（平成25年に稚内高校との統合により閉校）にいたバスケットボール部の顧問の先生から部活の遠征などの送迎を依頼されたのをきっかけに、各学校の部活などの送迎、



①ハイヤーと事務所。車は環境に配慮したハイブリッドカーで、いつ乗車してもピカピカで清潔。②3台のデマンドバスを保管してもまだ余裕がある大きな保管庫（車庫）。バスの車体には遠別町のマスコットキャラクターの「モモチん」が描かれている。

町からハイヤーが消えたら!? ハイヤー会社の存続を決意

「もうボチボチ仕事をやめて、年金もらって暮らそうか、そう家内と話していた矢先でした。遠別町からデマンドバスの委託業務を依頼されたのは。

私がこの町でハイヤー業務（一般乗用旅客自動車運送事業）に携わったのは、平成5年からでした。（株）北星ハイヤーを引き継いだのです。もともとこの町にはハイヤー会社は1社しかなく、前身は沿岸バスさんのグループ。沿岸ハイヤー、遠別営業所だったのですが、遠別から撤退することになったため、町が大騒ぎになりました。そこで有志数人が株を持ち合って、昭和51年に事業

鎌田 国彦さん

（株）北星観光 代表取締役

デマンドバスと ハイヤー業務を通じて町に貢献。 交通弱者の足となる覚悟です。

を承継しつつ、沿岸ハイヤーから北星ハイヤーへと社名を変え組織変更したのです。ところが、平成5年に経営者の建設会社社長が事故により亡くなってしまいました。いよいよ遠別からハイヤーが消えようとした時、白羽の矢が私に立ったのです。有志の一人から『あなたは遠別に来るまで車の運転手だったんだろ？ここはひとつ町のために一肌脱いで、ハイヤー会社を継いでくれないか』と打診され、それを断ったら遠別で生きてはいけななと思って、承諾を得るため家内を説得しました。

実は、私ら夫婦は紆余曲折を経て昭和59年に羽幌から遠別に移住し『スナック夜蘭花』という店を営んでいたのです。ハイヤーがないと



1Fは4年前まで営んでいた「スナック夜蘭花（よらんか）」。2Fが住宅。道路を挟んだ向いにはセイコーマート遠別店があり、便利な立地。



定員9名のジャンボタクシー。右半分に見えているデマンドバスの定員は15名。現行のハイヤー運賃の初乗りは、普通車750円、1,400mまで。

店も困るし、店は女性スタッフを一人雇用できればやっていけるだろうと家内を説きふせ10年振りに運転手に復帰することにしました。とは言うものの、かつて運転していたのはタクシーやハイヤーではなく、長距離トラックや大型トレーラーでした。幸運は重なるもので、東京で仕事をしていた息子に『ハイヤー会社をやることにした』と報告すると『北海道に帰って手伝おうか』と言って彼女（後に遠別で結婚）を連れてきて、私より先に2種免許を取得してしまふほどでした。家内とともに店を切り盛りしてくれた女性スタッフにも恵まれました。人柄が本当に良くて『私、結婚するまでは店で頑張るからね』いつも笑顔の人でした」

観光事業もストップしてしまいました。たから、ダメージを受けずに済んだのです。友人からは『お告げでもあったのか？』と冗談交じりに言われましたが、もしあのままバスを手放さなかったら、今日の私の会社はなかったかも知れません。

幸運の女神が再び訪れました。令和2年9月いっぱい沿岸バスさんが撤退した2つの路線バス、上遠別線と、清川線を遠別町がデマンドバスで運行することを決め、当社に委託の話が持ち込まれました。冒頭お話しした通り、引退しようと考えていたところでしたが、これまで町に育てていただいた感謝の気持ちもありましたから、恩返しのためにもデマンドバスを請負う運行委託会社として新しい路を歩きました。

デマンドバスにはいわゆる停留所がなく、住居に近い場所で乗降できます。ハイヤーに限りなく近い乗合の戸口から戸口への送迎サービスを、行える新たな可能性を秘めています。現在は2路線とも平日各6便（3往復）、土曜・祝日各2便（1往復）で運行し、運休日は日曜と年末年始（12月31日・1月3日）です。ただし乗車予約は必ず必要で、前日17時までに予約しなければなりません。

しかし課題がないわけではありません。遠別にはスクールバスがないため、デマンドバスがその一端を担っているのですが、路線が2ルート

しかないため、それ以外の郊外から子どもたちが通うとなると、現在は親御さんが国道沿いの豊富留萌線の停留所まで車などで送迎しなくてはなりません。昨今はヒグマ問題もありまして、国道と言えども児童が一人でいるのはリスクが大き過ぎるので、その対策を町と議会でいち早く決めてほしいものです。来年小学校に上がる新1年生のためにも。

つけ加えますと、デマンドバスは学校の運動会や発表会などの行事がある場合は臨時便で対応しています。コロナ禍以降、ハイヤー業務も厳しくなってきました。しかし、この町にも車を持たない高齢者や自力で病院に通うことのできない人もいます。そういう人たちのためにも、たとえこの先、ハイヤー業務が赤字になったとしても撤退させないための支援策を行政としても考えてほしいと思いますし、私たちも会社を挙げて地域の公共交通を守り、町の交通弱者の足となる覚悟でいます。

従来ハイヤー業務の営業時間は朝8時〜夕方6時でしたが、町の要請を受け、夜10時まで延長しています。札幌と豊富を結ぶ高速バスの最終便が遠別に到着する時間帯だからです。たとえ吹雪でもJRが動く限り、遠方から遠別の国保診療所に来てくれる出張医の先生の幌延駅までの冬期送迎なども担いながら、今後も少しでも町に貢献できればと思います」

★デマンドバスが運行する2路線郊外には遠別を象徴する北限の稲作地帯が広がっています。清川線（道道119号）には「日本最北の水田」があり、上遠別線（道道688号）には「水稻発祥の地」の碑が建つなど、見渡す限り青々とした水田が広がり、お米農家が連なっています。

★遠別町では町民の高齢者福祉対策として、申請により65歳になると旭温泉入浴券10枚、70歳になると北星ハイヤー利用券（初乗り相当額）10枚を配付しています。65歳以上の方で、自動車免許を自主返納した方には沿岸バス各回数券、または北星ハイヤー利用券（初乗り相当額）を配付しています。（※1人1回限り3万円分まで）

株式会社 北星観光

遠別町本町6丁目24番地2 ハイヤー ☎01632-7-3222 事務所 ☎01632-7-2462

■事業内容／一般乗用旅客自動車運送事業（ハイヤー事業） 一般乗合旅客自動車運送事業（デマンドバス事業）

■会社設立／昭和51年 平成24年に社名を北星ハイヤーから北星観光に変更 ■資本金／1,300万円 ■スタッフ数／4名

鎌田 国彦さん

昭和22年5月生まれ、東利尻（利尻富士）町出身。中学卒業後稚内へ出て、左官屋に。その後、稚内の魚を札幌の市場に運ぶ運送業に転職。やがて長距離トラックに乗るために名古屋へ行き、全国をトラックでまわる。その後、北海道に戻り羽幌町で大型トレーラーに乗る。しかし腰痛のため車の仕事を辞し、昭和59年遠別町でスナックを経営。平成5年、（株）北星ハイヤー代表取締役就任。